

論文審査の要旨

報告番号	修 第 32 号	氏 名	秋葉泰紀
論文審査担当者	主 査	福地 邦彦	
	副 査	鈴木 久義	
	副 査	榎田 めぐみ	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>画像処理技術が進歩し、CT (Computed Tomography) 画像を用いて作成する仮想内視鏡画像が結腸、胃、気管支、膀胱などの多くの臓器に臨床で有効に利用されている。その中で膀胱に関しては、CT 画像を用いて膀胱鏡を模擬した仮想膀胱鏡画像が多数報告されている。しかし、CT は膀胱内に造影剤を溜めた状態や、Foleys カテーテルを膀胱に挿入して残留尿を排出させた状態で空気を注入し撮影する必要がある、侵襲性や被曝を伴うことが欠点となる。</p> <p>申請者は、膀胱癌診断目的で膀胱鏡検査を実施した患者の多くで MRI (Magnetic Resonance Imaging) 検査が施行されることに着目し、MR 画像をもとに作成した仮想膀胱鏡画像の臨床応用への可能性を検討した。</p> <p>始めに、アクリルを模擬腫瘍に見立てたファントムにより、MR 画像をもとに作成した仮想膀胱鏡画像の適切な分解能の条件を設定した。次に実症例として、膀胱癌診断目的で膀胱鏡検査を実施された 40 名の患者を対象に MR 画像による仮想膀胱鏡画像を作成しその判定結果と膀胱鏡検査の結果および病理検査の結果と比較し評価した。MR 画像による仮想膀胱鏡画像の感度、特異度、陽性的中率はそれぞれ 83.9%、100%、100%であった。</p> <p>このことから、MR 画像をもとに作成した仮想膀胱鏡画像は、膀胱癌の検出に有効であり、臨床応用への可能性を示しており、学術的貢献度が大きであると考えられることから、保健医療学修士に値するものと判断した。</p>			